

## 年間第25主日

福音朗読 ルカ 16・1-13

2022.9.18

カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日は、この午後に大司教様をお迎えして堅信式がございます。堅信の秘跡によって、カトリック教会というかキリスト教入信が完成するわけです。完成と言っても一人前の信者になれるという意味ではなくて、完全に教会と一致して信者になるということです。わたしたちは誰も神様の前に、自分がもはや一人前です、と言うことはできないわけですが、洗礼の時に誕生して、堅信によって入信が完成するというわけです。今日は8人の方が堅信をお受けになります、そして完全な形でわたしたちが新しい仲間を迎えることができる。皆さん、参加される方はそんなに多くないかもしれませんが、共に祈りを通してその時を一緒に過ごしたいと思います。

わたしたちが頂いた信仰、神様との繋がりの中で大事な点が今日の福音の中にありました。今日のたとえ話の中で、管理人というのが出て来ました。そして、管理人が不正だと、主人のものを自分のために使っちゃってる、と。人のものを自分のために使っちゃうというのが不正ということですが、考えてみると、信仰の出発点というのは、あるいは信仰を通してわたしたちが思い起こさなきゃいけないことっていうのは、わたしたちが享受している、あるいは自分が所有していたり味わっている良いものというのは、みんな自分の元々持っていたものではなくて、神様からお預かりしている、というその点です。それが、信仰がない人と信仰を持っている人のものの見方の決定的な一つの違いと言わなきゃいけないんじゃないかなと思います。わたしたちはそれを時々忘れちゃって、良いものは自分のものだし、でもそれが失われたり、悪いことが起こったときには、神様が奪う、あるいは神様のせい、みたいな、良いことは自分のおかげ、悪いことは神様のせい、そういうふうに思いがちなところはあるんです。でも、本当は、そもそもわたしたちが人生で、出会いもそうだし、所有しているいろんなものもそうだし、人生で享受していることっていうのは神様からお預かりしてるんだ、これが信仰の見方ですね。

今日のたとえ話の管理人はそれを正しく用いてないって指摘されて、その時に気が付く。一つは、自分が何もできない者なんだ、「土を掘る力もないし、物乞いをすることもできないし」ってことと、それから、周りの人々との関係、本当はどのような

関係を結べば良かったのかっていう、その点に気が付いた。神様からお預かりしている良いものを用いて、周りの人とどのように付き合えば良かったのか。あるいは、周りの人がいたってことさえも今まで眼中になかったかもしれませんね、このたとえ話の管理人は。色々想像できます。

だから、わたしたちが神様の前に、本当にいろいろ頂いているものを、でも正しく用いてないってことは反省しつつ、でもその罪の意識によって変わっていくというか、新たな気づき、自分は何者でもない、そして、周りの人とどのように付き合っていたらいいのかっていう新たな気づきになっていくならば、正にそこから新しい出発なんだということです。

でも、自分の中にそういう弱さがあったり、あるいは不正があったりということに気付いていながら、でもそこから目をそらすってということもありうるんですよ。自分のできてないことを、でも他人に投影して他人をせめることで自分がなにか正しく生きているような気持ちになる、それで満足する。そうじゃないことで、良かったなと、このたとえ話は、わたしたちは一体どうなのかってことだし、もう一つは、正しく管理しているつもりで、他の人に対して非常に厳しく取り立てるみたいな、寝ている病人の布団を引っぺがしても負債を取り立てるってというような気持ちで周りの人を責めて止まない。自分は正しく生きていると、自分の中にある不正に気が付かないというのがもっと重病です。

イエス様は聖書の中でいろんな奇跡を行って、悪霊だって追い出して、病の人だって直して、そして死んだ人だって蘇らせる、いろんな奇跡を行いましたイエス様だけど、ただ一つできなかったのは、なんにもアプローチできなかったのは、自分が正しいと思っている人の心を変える、それはできない。ファリサイ派とか律法学者とか。

わたしたちは神様の前にそのような者じゃなくて、いろんなこと、イエス様の生き方、そして聖書との対話の中で、自分の中にある不正に出会う、見出すということを恐れる必要はないんです。そこからが神様に導かれる第一歩だから。それは、わたしも罪人だし周りも罪人だから、って傷を舐め合う、だからこのままでいいんだ、ということとは違います。でも、謙遜になって、そして自分自身も至らない者として、他の人を受け入れ合いながら、共に生きてるんだっていう感覚を取り戻すということが信仰の実りなんじゃないかなと思います。

だから、今日、わたしたちが改めて、いつもミサのたびごとに回心の祈りから始めますけども、神様からお預かりしている良いもの、そしてなによりも一人ひとりの命に対してどうであるのかを思い起こしながら、そして、直していかなきゃいけないなということに気付くならば、正に幸いなるかな、神様からの気づきの恵みとして感謝しながら、ほんとの謙遜の内に生きていくという思いを新たにして、今日堅信を通し

て新たに完全に教会の仲間になられる方々と共に歩いて行く、その思いを新たにして、このごミサを通してお互い恵みを受けたいと思います。わたしたちと共にいつもいらっしゃるイエス様がわたしたちの歩むべき道を示して、そして共にいつもいてくださるという信頼をもって、このごミサをお捧げしたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>